

# EXHIBITION SCHEDULE

## 2013年度 展覧会スケジュール

### 春季特別展

#### 画家 安野光雅の世界展 —文学、科学から歴史物語、風景画まで—

2013年 4月6日(土)～5月26日(日)

1926年、島根県津和野町に生まれた安野光雅は、子供の頃より画家になる夢を抱き、美術教師として上京します。教員のかたわら、本の装丁など出版関係の仕事を手掛け、1968年、「ふしぎなえ」で絵本界にデビュー。美術だけでなく科学や数学にも造詣が深く、持ち前の好奇心と想像力の豊かさを発揮し、次々と独創性に富んだ作品を発表し続けています。国際アンデルセン賞画家賞をはじめ数々の賞を受賞し、2012年には文化功労者となりました。本展では津和野町立安野光雅美術館所蔵の絵本原画や歴史画、風景画などの代表作を展示し、画家・安野光雅の世界をお楽しみいただけます。



安野光雅「ポルトの町並み」©空想工房

### 企画展郷土作家シリーズ

#### 明石の森とふくろう —福田好克展—

2013年 6月8日(土)～7月7日(日)

自然との共生をテーマに制作を続ける洋画家・福田好克(1935-)。よく知られる明石の森にふくろうや月を配した作品は、作家自身の心象風景です。また明石海峡や明石城を描いた作品には、郷土を見つめる作家のまなざしが感じられます。明石市が2012年度に収蔵した油彩画11点を中心に、福田好克の軌跡をたどる展覧会を開催します。



福田好克「明石に棲むふくろう」

### 企画展

#### 発掘された明石の歴史展 —古代の明石—

2013年 11月9日(土)～12月15日(日)

「発掘された明石の歴史展」は市内の発掘調査によって出土した資料を中心に取り上げ、そこから明らかにされた先人たちのくらしぶりを広く知ってもらう機会として開催しているもので、今年で21回目を迎えます。今年はテーマを「古代の明石」とし、明石地域の古代寺院や駅家等から出土した遺物を展示・紹介いたします。いにしへの明石に思いを馳せてください。

### 夏休み特別企画展

#### 光と遊ぶ超体感型ミュージアム 魔法の美術館展

2013年 7月13日(土)～9月1日(日)

当館では初めてとなる、メディアアートの美術展。コンピューターの先端技術を駆使して作られた、不思議な作品群がやってきます。絵の具や粘土ではなく音や光・映像で作った作品ですから、光ったり動いたり、変幻自在で何が起こるかわかりません。ただ眺めるだけでなくその中に飛び込んでみると、まるで光の魔法にかかったよう!見て、触れて、参加して、ゲーム感覚で楽しめる「魔法の美術館」。夏休みにはぜひご家族揃って、異次元空間に変身した博物館でたくさんの「不思議」を体験してください。



plaplax「Kage's Nest」©plaplax

### 新春特別展

#### 黄金期の浮世絵 歌麿とその時代展

2014年 1月4日(土)～2月9日(日)

時代はまさに浮世絵の黄金期。美人画の大家・喜多川歌麿、鳥居清長、鳥文斎栄之らと人気役者絵師の勝川春章、歌川豊国たちが競演する時代でした。歌麿は女性の理想像を追究し、成熟した女性の色香を見事に表現し、美人画の第一人者と謳われました。江戸のもう一つの華は歌舞伎、芝居の「役者絵」です。役者の一瞬の表情を捉えた大胆な役者絵で、大衆の人気を得た勝川派、歌川派らが活躍しました。本展では、歌麿とその弟子たちをはじめ、清長、栄之らの美人画と勝川派の春章、春好、歌川派の豊国、国貞らの役者絵に、色鮮やかな肉筆画を加えて、全盛期の浮世絵を紹介いたします。



喜多川歌麿「山姥と金太郎」

### 企画展 館収蔵品展

#### 明石藩の世界(仮称)

2013年 9月21日(土)～10月20日(日)

6年後に明石城は築城400年を迎えます。明石藩への関心が高まるこの機会に、当館所蔵の明石藩関連資料に加え、近年博物館に収蔵した明石藩主松平家資料、幕末時に明石藩家老を務めていた黒田半平長棟関連の資料を、3年かけて公開します。今年は、文書や美術品を中心にお披露目する予定です。

### 企画展

#### くらしのうつりかわり展

2014年 2月16日(日)～3月21日(金・祝)

毎年小学校の社会科・総合学習の一環として開催される「くらしのうつりかわり展」は、昭和時代のくらしの様子を当時の道具や写真などで振り返るものです。小学生だけでなく、さまざまな世代の方にお楽しみいただける展覧会です。※例年、小学校の社会科の課外学習でご利用いただいています。見学申し込みは9月中旬に開始予定です。詳しくはお問い合わせください。